

# 資料編

## Appendix





1. 我々の目指すところ（ミッション）
 

「世界青年の船」事後活動組織（以下SWYAA）は、日本政府（内閣府）が主催する「世界青年の船」事業で培われた文化理解、国際協力、国際平和の実現に向けてのリーダーシップ精神を推進し、支援する。
2. 目的
  - (1) 「世界青年の船」事業の参加青年と既参加青年のコミュニケーションを図ること。
  - (2) 既参加青年と日本政府とのコミュニケーションを図ること。
  - (3) 国内・国外を問わず、情報を提供し、ネットワークを構築すること。
  - (4) 率先して新たな社会的、自発的、発展的な活動を地域もしくは世界規模で企画すること。
  - (5) 共通の目的を達成するために、SWYAAの関係を強化すること。
3. 方法
 

上記の目的は以下の方法を使って実行される。なお、以下の方法はすべてを網羅しているわけではない。

  - (1) 正確な各国のデータ・ベースを維持管理する。
  - (2) 個人データの変更をIYEOへ連絡する。
  - (3) 機関誌“SWY News”に協力するとともに、年間活動報告を提供する。
  - (4) 国内機関誌を定期的に発行する。機関紙のコピーをIYEOに提供する。
  - (5) 様々なコミュニケーション手段を利用した連絡体制を構築する。
  - (6) 各国SWYAAは公式ホームページを一つ作成する。
  - (7) 新参加青年の選考や事前研修に協力する。
  - (8) 日本政府との連絡は在日公館若しくは日本青年国際交流機構（IYEO）を通じて行う。
4. 組織構成
  - (1) それぞれのSWYAAは自治権を持ち、独立し、各国会員によって構成されている。
  - (2) SWYAAは代表者1人と、最低1人の副代表者を選出しなければならない。
  - (3) SWYAAは2人のメール送受信者を選出しなければならない（代表者と副代表者が兼任することが望ましい）。
  - (4) SWYAAは会計担当を選定することが望ましい。
  - (5) その国の「世界青年の船」事業既参加青年や、その国に居住している他国の既参加青年の中から積極的な活動を行う会員を募ること。会員には2種類ある。
    1. 「世界青年の船」事業の既参加青年
    2. 内閣府が主催する他事業の既参加青年
- (6) SWYAAは、その会員数に応じて規模を拡張していく。
5. 管理体制/各担当
  - (1) 代表者の役割
 

国を代表し、国内のコミュニケーションを構築し、国際的なレベルでは連絡係としての役割を果たす。

事後活動組織の活動の企画・運営をする。

会員の正確、かつ最新のデータを管理し、更新する。

日本大使館、日本青年国際交流機構（IYEO）、他国のSWYAAと連絡を取り合う。

必要に応じて副代表者や他会員に任務を委任する。

同窓会の情報を維持し、全ての記録を次の代表者へ引き継ぐ。
  - (2) 副代表者の役割
 

代表者の補佐業務を行う。

代表者が役割を果たせない際には、その代役を務める。
  - (3) メール送受信者の役割
 

SWYAA-Councilメーリングリストメールアドレスを登録しなければならない。

SWYAAに関する情報を受け取り、会員に伝える。

SWYAA-Councilメーリングリストを通して他国のSWYAAへ情報を提供する。

メール送受信者が各国SWYAAの代表者でない場合、何かをする時は随時、代表者の確認を取ること。
  - (4) 会計の役割
 

会計の主な業務とは、事後活動組織の経理一般の管理である。その具体的な業務内容は以下の通りである。

会費の徴収  
会計管理  
経理記録の管理と会計報告
6. 機関誌
  - (1) 年1回発行される「世界青年の船」事業機関誌“SWY News”は、内閣府の責任の下にIYEOが編集し、郵送で既参加青年に送るものである。
  - (2) 各国SWYAAは、SWY Newsのために、少なくとも原稿を1部提供する。
7. 年間報告書
  - (1) 各国SWYAAは、前年度の活動記録を2月の末までにIYEOへ提出する。
  - (2) 年間報告書は、SWYAAガイドラインに沿って作成すべきものである。

1. 「世界青年の船」事後活動組織（SWYAA）とは

「世界青年の船」事業で培われた精神を継続させることを目的に、各国で設立されている既参加青年のための組織。各国代表者1名、副代表者2名、Eメールによる情報交換の責任者（Eメール・レシーバー）2名を基本の組織形態とし、国内における社会貢献活動などの事後活動の企画運営、日本大使館や政府との連携強化、メンバーの住所管理、新メンバーが事業に参加するためのサポートなどを主な活動としています。

2. 参加国

平成25年3月現在、世界46か国で設立され、様々な活動を展開しています。

3. 目的

- ・ 「世界青年の船」事業の参加青年と既参加青年のコミュニケーションを図ること。
- ・ 既参加青年と日本政府とのコミュニケーションを図ること。
- ・ 国内・国外を問わず、情報を提供し、ネットワークを構築すること。
- ・ 率先して新たな社会的、自発的、発展的な活動を地域若しくは世界規模で企画すること。
- ・ 共通の目的を達成するために、SWYAAの関係を強化すること。

4. 活動内容

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議とは（通称：既参加青年会議 Ex-PY Conference）

年1回、内閣府が実施する事後活動組織代表者のための会議。「世界青年の船」事業参加各国におけるSWYAAの形成・充実とそれを基盤とした各国内での事後活動の展開について情報交換を行うとともに、各国及び日本の既参加青年事後活動組織の有機的な連携による国際的ネットワークの構築に向けた討議を行うことを目的としています。具体的には、SWYAAのネットワークを使って行う社会貢献活動や今後の事後活動の方向性、そして既参加青年がどのように「世界青年の船」事業に貢献できるかなどを話し合います。これまでの会議の結果、ホームステイ・ネットワークの構築、「世界青年の船」事業に乗船する既参加青年指導官の推薦、参加青年のための事前準備マニュアルやナショナル・リーダーのためのハンドブックの作成、「世界青年の船」事業の紹介をするための広報用キット（プロモーション

キット）の作成、メーリングリスト使用のためのルール作り、そして「世界青年の船」事業乗船予定者のために事後活動組織が実施する事前研修のガイドライン作成、といった成果が挙がりました。また、国内と世界に広がる会員のネットワークを活用して文化交流を促進させるとともに、更なるネットワークの強化を目的とした「グローバル・フォト・コンテスト」も平成16年度より4回にわたって開催されました。このほか、平成17年度にはSWYAA共通のロゴを決めるコンテストを開催、平成18年度には異文化理解ハンドブックをデータ化し、ホームページへの掲載を始めました。また、広報用に使用できる公式ビデオ（10分版）も完成しました。平成19年度には「世界青年の船」20周年記念事業の一環として、「世界青年の船」事業の各回の歴史や情報を集約するホームページの作成、SWYカレンダーの作成、チャリティ・ランチの実施及び環境への貢献活動として、「世界青年の船の森」の植林に取り組むことなどが約束されました。平成20年度には国際支援活動として、ケニアで実施している国内避難民支援活動や、スリランカにおける就学支援に対して日本青年国際交流機構が協力することを約束しました。平成21年度から22年度にかけては、異文化理解教育のための教材を作ったり、「ホームステイ+1（プラスワン）」という名称でホームステイを受け入れながらボランティアなどの「+1（プラスワン）」の体験をさせたりする活動を広めることで合意しました。また、事業出身者でその後、功績を挙げた人の情報や、事業の意義についての参加青年の声を集約する動きも始まりました。

SWYAA国際大会（通称：グローバル・アセンブリー）

運航中の「世界青年の船」事業の寄港地で開催していた既参加青年代表者会議（インターナショナル・リユニオン）を、平成19年度からはSWYAA国際大会（グローバル・アセンブリー）に名称を変え、事後活動組織の活動が活発な国で年1回実施するようになりました。この大会では、社会的な貢献活動を地域若しくは世界規模で推進し、またそのような活動を達成するための方策を協議する「事後活動協議会」を同時開催し、各国の事後活動の状況を集約し、「世界青年の船」事業の成果を総括します。第1回のSWYAA国際大会は平成19年9月にギリシャで、第2回大会は平成20年8月に日本、第3回大会は平成21年9月にオーストラリア、第4回大会は平成22

年10月にエジプト、第5回大会は平成23年9月にメキシコ、第6回大会は平成24年10月にバーレーンで開催しました。

#### SWY News

「世界青年の船」事業の機関紙（英文）で、年1回発行。日本青年・外国青年を問わず、過去10年の既参加青年及び希望者に送付されています。各国の事後活動組織の活動内容、既参加青年会議の議事報告、世界各地の既参加青年からの近況報告等の内容の記事が盛り込まれています。これまでに20号を発行しました。

#### メーリングリスト

既参加青年同士の連携を深めるために、メーリングリストが立ち上げられ、活用されています。メーリングリストには英語と日本語があり、以下の種類があります。

- 日本人既参加青年全体の日本語メーリングリスト
- 各年度の日本人既参加青年の日本語メーリングリスト
- 「世界青年の船」事業と事後活動の関連のニュースを流すメーリングリスト（SWY-news）
- 既参加青年全体の英語メーリングリスト（SWY-net）

- 各年度の英語メーリングリスト
- SWYAA代表者のメーリングリスト（SWYAA-council）

#### ホームページ

世界に広がる「世界青年の船」事後活動組織（SWYAA）の活動を活発化するため、コンピュータを利用したネットワークの強化が推進されています。各国の事後活動組織で独自に立ち上げているホームページとリンクされたSWYAAのホームページにおいて、各国の活動やホームステイ・ネットワーク、リユニオンの開催など、様々な情報交換を行っています。URL: <http://www.swyaa.org>

また、「世界青年の船」事業を一般に紹介するホームページも平成21年5月に立ち上げられました。

URL: <http://www.shipforworldyouth.org>

#### SWYAA Directory（住所録）

「世界青年の船」事業既参加青年の住所録には、すべての既参加青年の氏名、住所、電話番号、ファックス、Eメール、興味のある分野等が掲載されています。この情報は既参加青年同士が連絡を取り合い、活動を推進していく際に役立てられています。

1. 「世界青年の船」事業既参加青年の国際的連携を目指して

昭和63年度に開始された「世界青年の船」事業は平成24年度には第25回を迎え、事業に参加した日本青年は計約2,880人、外国青年は63か国で約3,730人となっています。これら既参加青年たちは「世界青年の船」事業で得た貴重な体験をいかして、地域、職場、学校等において国際交流活動、青少年活動を活発に行うことが期待されているほか、日本と各参加国との間の友好親善の懸け橋としての役割も期待されています。

各国の既参加青年の事後活動は、当初は基盤となる組織や資金、そして活動のノウハウが乏しく、積極的な活動展開が難しい状態でした。しかし「世界青年の船」事業が回数を重ねるとともに既参加青年の層も厚くなり、情報が蓄積されたことと、インターネットの普及も影響して、グローバル・ネットワークの確立と国内の活動の活発化に向けて、少しずつ前進を始めるようになりました。

第12回のプログラムより参加国は東西融合となりましたが、東廻り（北・中南米、オセアニア等方面）と西廻り（南西アジア、中近東、アフリカ等方面）を隔年で訪問するスタイルは変わりません。寄港地、参加国共に固定されないという条件の下で、本格的な地球規模の活動を展開するための基盤の確立は難しい点もあるかと思われませんが、国際連携組織を目指しての活動を推進していきたいと考えています。

2. 始まりはギリシャから

この構想の具体化の第一歩として挙げられるのは、平成5年度の第6回「世界青年の船」事業の寄港国ギリシャのピレウスで行われた一つの集まりでした。これは、第4回事業に参加をしたハンガリーとスウェーデンの青年たちが日本の第4回事業の既参加青年と連絡を取り合い、ピレウスに入港中の「世界青年の船」に集合したものです。事前の準備不足や資金不足、連絡の不徹底等によって、集まった人数は少人数にとどまり、具体的な会議も設定できない状況だったものの、今後の展開を図る上での貴重な経験となりました。

3. 「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（インターナショナル・リユニオン）

このような経緯をたどり、正式のインターナショナル・リユニオンとして「世界青年の船」事業既参

加青年代表者会議（東廻りコース）が平成7年3月2日～3日の二日間にわたり、メキシコのアカプルコに寄港中の第7回「世界青年の船」船上で開催されました。この会議には、寄港国メキシコの既参加青年を始めとして総計56人が参加し、親交を深めました。会議では、まず各国での事後活動組織の設立とそれを基盤とした各国内での活動の展開について議論が行われ、引き続き日本と各国の事後活動組織の有機的な連携の方策と国際的なネットワークの構築について話し合われました。最後に、第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議の結果ということで、今後の活動に関する提案文が承認され、その後の組織化の第一歩が印されました。以後、インターナショナル・リユニオンは2006年まで運航中の「世界青年の船」事業のいずれかの寄港地で開催されました。

当初は船上で行う二日間のプログラムでしたが、平成12年度（2000）のニュージーランドでの開催からは船上会議と訪問国活動を含む四泊五日のイベントとなりました。これまでの実績として、メキシコのアカプルコで3回（1995, 1997, 1999）、アラブ首長国連邦のドバイで1回（1996）、オマーンのマスカットで1回（1998）、南アフリカのケープタウンで1回（1999）、ニュージーランドのオークランドで1回（2000）、カナダのバンクーバーで1回（2002）、タンザニアのダルエスサラームで1回（2004）、オーストラリアのシドニーで1回（2005）、そしてモリシャスのポートルイスで1回（2006）開催されました。平成13年（2001）10月についてはケニア、平成19年（2007）2月にはフィジーでの開催が予定されていましたが、それぞれ、「世界青年の船」事業の航路変更のため、中止となりました。

インターナショナル・リユニオンは平成19年（2007）より名称を「SWYAA国際大会（グローバル・アセンブリー）」と変え、事後活動協議会との同時開催で訪問国活動と関連しない時期に実施するようになりました。

4. 「世界青年の船」事後活動組織（The Ship for World Youth Alumni Association: SWYAA）の設立

第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（東廻りコース）に出席した第3回と第5回事業の既参加青年と第7回「世界青年の船」事業の団員によって「世界青年の船」事後活動組織についての原案がまとめられました。これを受け、第7回「世界

青年の船」の船上においても熱心な討議が重ねられた結果、参加国ごとに3名のキーパーソンが決められ、今後のそれぞれの国における組織作りや各国との連携体制について定められました。その成果は、まず、エクアドルで事後活動組織が発足するという形となって現れ、その後も各国で次々と事後活動組織が設立されました。

5. 「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（東廻りコース）の開催

第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議（東廻りコース）を受けて、各国の国内活動にとどまらず、本格的な既参加青年の国際的ネットワークを作ることを目指して、第1回「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議が平成8年1月16日～21日に開催されました。

この会議では、日本政府により招へいされた13か国14名の外国青年代表者と日本青年国際交流機構のメンバーにより、今後の活動の方向性について活発な議論が展開され、その結果は参加者全員の署名入りSWYAA Agreement (East) としてまとめられました。

6. 「世界青年の船」事業既参加者（西廻りコース）の組織化

これまでは、東廻りコースの既参加青年の活動が先行していましたが、平成8年3月1日・2日の両日、アラブ首長国連邦のドバイ寄港中の第8回「世界青年の船」船上において、既参加青年代表者会議（西廻りコース）が開催されるに至り、東廻りコースの活動状況が説明されました。また、平成9年1月16日から21日には、第2回「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（西廻りコース）が開催され、

熱心な議論の末、結果はSWYAA Agreement (West) としてまとめられました。

7. 「世界青年の船」事業事後活動ネットワークの組織化

東西における事後活動組織の組織化の流れを受け、「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議（既参加青年会議）及び「世界青年の船」事後活動組織国際大会（インターナショナル・リユニオンを含む）は、東廻りコースと西廻りコース隔年で開催されるようになりました。既参加青年会議は各国代表者を東京に招へいして会議を行っています。平成13～18年度は代表者を運航中の「世界青年の船」事業の最後の寄港地に招へいし、そこから「世界青年の船」に乗船。船上で会議を行うとともに参加青年に対して事後活動に関する説明を行い、東京に到着後、日本人の実行委員を含めて更に討議を深め、会議のまとめをする形態を取りました。また、東・西異なる形でまとめられていたAgreement については、平成17年度にすべての事後活動組織が共通の目標を持って活動に取り組むことを目的として、SWYAA Charter という統一の憲章にまとめられました。

8. インターネットを活用した情報交換

情報の電子化に伴い、既参加青年同士の情報交換を活発化するため、平成8年度にメーリングリストを立ち上げました。また、平成11年度の既参加青年会議での話合いを基に、平成12年度にSWYAA共通のホームページを立ち上げ、各国の活動をホームページ上で紹介するようになりました。その他にも、既参加青年全体で情報交換をする目的で、各種メーリングリストを立ち上げています。

### 1. 沿革

日本青年国際交流機構(International Youth Exchange Organization of Japan略称 IYEO)は、昭和34年度から始まった内閣府(総務庁・総理府)が行ってきた青年国際交流事業「青年海外派遣」「青年の船」「東南アジア青年の船」「日伯青年親善交流」「日本・中国青年親善交流」「オマーン親善交流」「国際青年年記念青年海外特派員派遣」「日本・韓国青年親善交流」「世界青年の船」「国際青年育成交流」「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」の各事業の参加青年で組織されており、会員数は1万5千名に達しています。

沿革をたどると、昭和36年、青年海外派遣事業の既参加青年組織として「日本青年海外派遣青友会」が結成され、次いで昭和43年「青年の船」の既参加青年組織として「青年の船の会」が組織され、昭和60年には活動組織としての確立を目指して両者が統合し「日本青年国際交流機構」が発足しました。

### 2. 目的・組織

日本青年国際交流機構は、その規約に「青少年国際交流」事業で得た成果を踏まえつつ、国際理解を深め、国際親善に寄与し、もって広く社会に貢献するとともに、会員相互の交流と研さんを図ることを目的とする」と規定し、この目的に沿った活動を行うために、各都道府県が実施している国際交流事業に参加した青年たちとも連携を取りながら全国47都道府県に都道府県国際交流機構があります。その名称は、原則として「都道府県青年国際交流機構」ですが、伝統に基づいた独自名称を称している所や、都道府県事業の既参加青年との合同組織の場合には別名称を称している所もあります。また、47都道府県の各組織は、財団法人青少年国際交流推進センターの都道府県団体会員に登録されています。

### 3. 活動

日本青年国際交流機構の中央組織は、会員相互の交流を図り、都道府県での活動が円滑に行われるよう連絡調整の役割を果たすとともに、「東南アジア青年の船」や「世界青年の船」ならびに「航空機による交流国」に参加した外国青年との連携強化を推進しています。

都道府県青年国際交流機構は、地域の国際交流活動の振興に寄与し広く社会への活動の輪を広げて行くとともに、内閣府の行う青年国際交流事業の発展に協力することが主な活動です。

### 4. 充実・強化

日本青年国際交流機構では、青少年国際交流事業既参加青年の事後活動としての国際交流活動を一層発展させ、各地域での交流活動を充実、強化するために、ボランティアを強力に支援出来る体制の確立が不可欠であると考え、公益法人の設立を目指して長年にわたり取り組んできました。この趣旨が理解され、平成6年4月財団法人青少年国際交流推進センターの設立が許可されました。

日本青年国際交流機構は、同センターと密接な連携の下に、国際交流活動を基本とした社会に貢献しうる活動を目指しています。



## SWYAAとIYEOの関係について

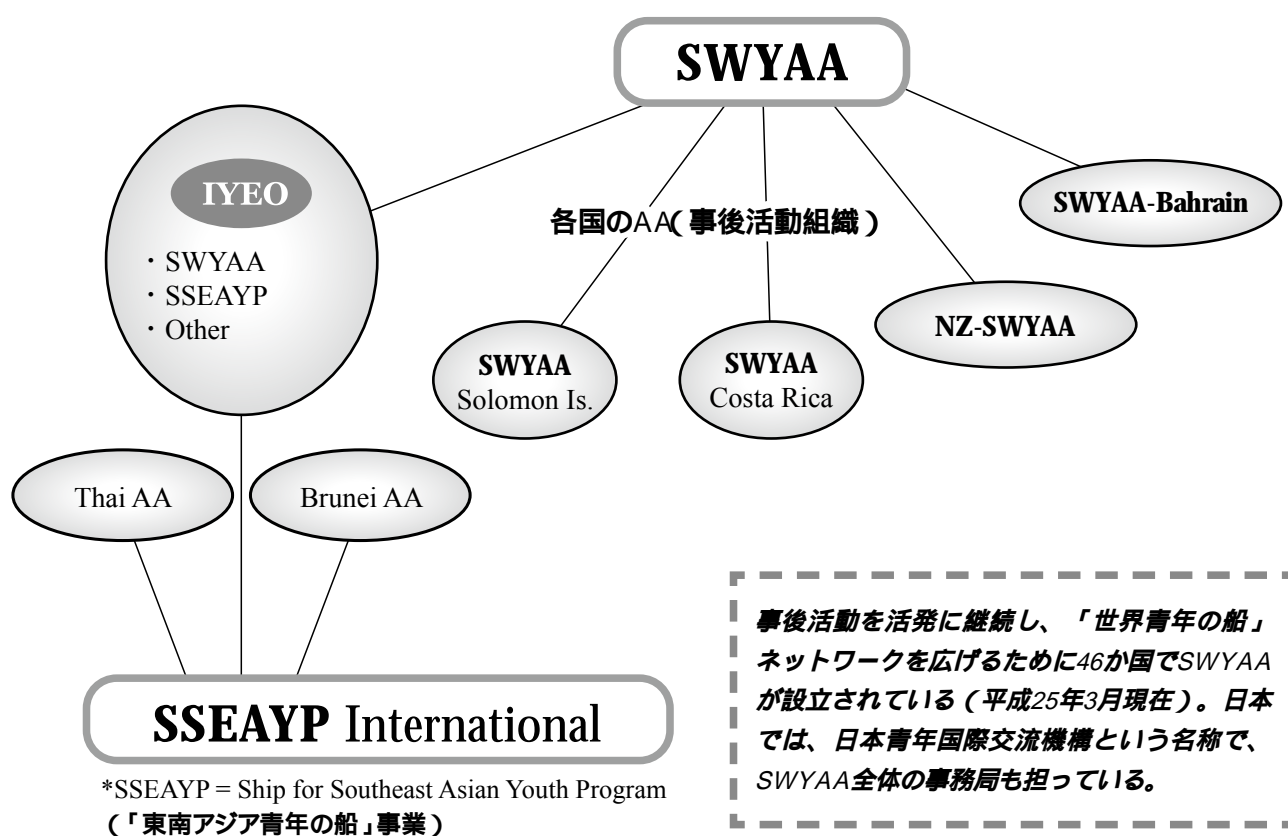
SWYAAとIYEOの関係が間違っ理解されることが多いので、それぞれの立場を理解するために以下の説明を参考にすること。

SWYAA...Ship for World Youth Alumni Association (「世界青年の船」事後活動組織)

各国の既参加青年のよって設立された事後活動組織(同窓会組織)の総称。組織の名称は国によって異なる場合がある。

IYEO...International Youth Exchange Organization of Japan (日本青年国際交流機構)

内閣府の青年国際交流事業(「世界青年の船」事業、「東南アジア青年の船」事業、日中・日韓青年親善交流事業、等)の既参加青年によつて設立された事後活動組織。IYEOはSWYAAの上部組織ではなく、日本の事後活動組織であるが、SWYAAネットワークを継続していくために、現在、各国のSWYAAの事務局として機能している。



IYEOが事務局を持ち、日本政府と密接な関係を築いているため、国際的な事後活動を率先して行なったり、日本政府からの事業に関する情報提供を各国事後活動組織に対して行なったりしている。

IYEOはボランティア活動を約40年間継続していたが、その活動を支援する目的で平成6年に(財)青少年国際交流推進センターが設立された。IYEOはNGOではあるが、日本政府から事後活動を行なうための様々な援助を受けるようになっている。財団と内閣府からの支援に基づき、IYEOはSWYAAの活動にある程度の援助ができるようになった。

## 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)設立のためのステップ

### ステップ1

1. 各AAは代表1名、少なくとも副代表1名を置かなければならない。
2. 各AAはE-mail送受信担当者2名を置かなければならない。できれば、代表と副代表が兼任することが望ましい。
3. 各AAは会計担当を置くべきである。
4. その国の「世界青年の船」事業既参加青年や、その国に居住している他国の既参加青年の中から積極的な活動を行う会員を募ること。
5. 正確な会員データベースを作成、整備し、変更が生じた場合はIYEO事務局に連絡する。
6. 自由、かつ公正な代表の選考を定期的に行う。

### ステップ2

1. 毎年1回発行のSWY Newsに寄稿し、年間活動報告を提出する。
2. 定期的にニュースレターを発行し、配布する。1部をIYEO事務局に提出すること。
3. すべてのAA情報を整備し、後任の委員に引継ぎをする。
4. さまざまなコミュニケーション手段を利用し、AA内のネットワークを発展させる。
5. 各AAで公式ウェブサイトをつつ作成する。
6. 新しい参加青年の選考や事前研修に参加する。

7. 日本大使館とのコミュニケーションを確立する。
8. ホームステイ・ネットワークやトラベル・ネットワークを強化する。AAの世界的なネットワークを利用し、自主的に国際交流事業を企画する。

### ステップ3

1. 国内におけるリユニオン、または会議を開催する。
2. 「世界青年の船」事業の寄港地になった場合、日本大使館とその国の政府の協力のもと訪問国活動を担当する。
3. 日本政府主催の他の国際交流事業の既参加青年とネットワークを構築する。
4. 「世界青年の船」事業や日本文化を紹介するイベントを主催する。日本大使館との協力が望まれる。

### ステップ4

1. 会費の徴収や募金活動に携わる。
2. 組織が確立していないAAを支援するためのAA同士のパートナーシップを設立する。
3. 定期的な国際会議やインターナショナル・リユニオンを開催する。
4. 国際社会に貢献する社会活動を行う。

インターナショナル・リユニオンと国際大会の年表

	開催地	開催日程	
第1回	メキシコ/アカプルコ	1995年 3月2日～3日	第1回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第2回	アラブ首長国連邦	1996年 3月1日～2日	第2回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第3回	メキシコ/アカプルコ	1997年 3月3日～4日	第3回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議)
第4回	オマーン/マスカット	1998年 2月20日～28日	第4回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第5回	メキシコ/アカプルコ	1999年 2月23日～26日	第5回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第6回	南アフリカ/ケープタウン	1999年 10月2日～3日	第6回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第7回	ニュージーランド/オークランド	2000年 10月7日～11日	第7回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
		2001年	(ケニアでの開催予定が航路変更に伴いキャンセル)
第8回	カナダ/バンクーバー	2002年 11月24日～28日	第8回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第9回	タンザニア/ダルエスサラーム	2004年 2月8日～12日	第9回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第10回	オーストラリア/シドニー	2005年 1月31日～2月4日	第10回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議
第11回	モーリシャス/ポートルイス	2006年 2月11日～16日	第11回「世界青年の船」事業既参加青年代表者会議

インターナショナル・リユニオンは2007年より名称を「SWYAA国際大会(グローバル・アセンブリー)」と変え、事後活動協議会との同時開催で訪問国活動と関連しない時期に実施するようになりました。

	開催地	開催日程	テーマ	概要	主な活動内容
第1回	ギリシャ/ アテネ	2007年 9月5日～9日	既参加青年の 地域への貢献	2006年まで「インターナショナル・リユニオン」として開催されていた大会を、社会貢献活動に重点を置いた内容にリニューアルした。15か国から29名の既参加青年が参加し、18名のギリシャの既参加青年が運営に携わった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;社会貢献活動&gt;</li> <li>・環境啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 森林保全と山火事防止を呼びかけるリーフレット配布活動</li> <li>講演:「環境災害時における市民の役割」</li> </ul> </li> <li>&lt;事後活動協議会&gt;</li> <li>・各国の事後活動報告、今後の活動について</li> <li>&lt;チャリティーオークション&gt;</li> <li>・ギリシャ山火事のためのチャリティー・オークションの実施</li> <li>- 収益金:850ユーロ</li> </ul>
第2回	日本/東京	2008年 8月21日～24日	SWY精神の 再燃	第1回SWYAA国際大会に引き続き、日本にて第2回SWYAA国際大会が開催され、9か国から50名の既参加青年が参加し、うち12名が運営に携わった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;社会貢献活動&gt;</li> <li>・持続可能な社会コース <ul style="list-style-type: none"> <li>- 有機農園体験</li> <li>講義:「食と燃料のことから持続可能性を考える」</li> <li>講師:佐藤太</li> </ul> </li> <li>・コミュニティと青年コース <ul style="list-style-type: none"> <li>- NPOグリーンバード訪問</li> <li>講義:「地域での清掃活動」</li> <li>講師:NPOグリーンバード職員</li> </ul> </li> <li>・大東文化大学視察</li> <li>講義:「高島平団地再生プロジェクト」</li> <li>講師:山本孝則</li> <li>&lt;事後活動協議会&gt;</li> <li>・社会貢献活動の事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 講義(講師:佐谷恭)</li> <li>- 国際支援プロジェクトの紹介</li> <li>ケニア支援プロジェクト、スリランカ就学支援プロジェクト</li> <li>- ワークショップ「自分たちで企業又はNGOを設立する」</li> </ul> </li> <li>&lt;チャリティー・ランチ&gt;</li> <li>- 収益金:93,040円</li> </ul>
第3回	オーストラリア/ ブリスベン	2009年 9月2日～6日	既参加青年の 社会貢献	6か国から27名の既参加青年が参加し、うち7名が運営に携わった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;社会貢献活動&gt;</li> <li>・ボランティア・クイーンズランド</li> <li>講義:ボランティア・クイーンズランドの活動内容について</li> <li>講師:デイヴィット・ハム(ボランティア代表)</li> <li>・アルバート・パーク・フレキシ・スクール訪問</li> <li>・ロイヤル・ブリスベン・アンド・ウィメンズ・ホスピタル(RBWH)訪問</li> <li>&lt;事後活動協議会&gt;</li> <li>・各国の事後活動報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 世界青年のバス(Bus for World Youth = BWY)</li> <li>- 平和計画2008(Projects for Peace 2008)</li> <li>- ダンスで楽しむ(Dance for Fun)</li> </ul> </li> <li>・「世界青年の船」20周年記念事業活動報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 世界青年の船の森(SWY Forest)</li> <li>- サポート・ケニア・プロジェクト(Support Kenya Project)</li> <li>- One More Child Goes to School</li> </ul> </li> <li>&lt;ファンド・レーシング&gt;</li> <li>・RBWH基金(子供のメンタルヘルス研究)へのファンド・レーシング・ディナー</li> <li>- 収益金:3,480オーストラリアドル</li> </ul>

第4回	エジプト/ カイロ	2010年 10月9日～12日	国際コース年 対話と相互理 解	24か国から180名の既 参加青年が参加した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回「世界青年の船」事業既参加青年であるDr. Sahar Hegazi氏を講師に迎え、「エジプトの若者が直面している問題」についての講義</li> <li>・訪問先 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)エジプトフードバンク</li> <li>2)ナディーン協会聴覚障害ユニット</li> <li>3)小児ガン病院</li> <li>4)ゲジラ青少年クラブ</li> </ul> </li> <li>・事後活動協議会で提案されたプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> <li>1.環境保護プロジェクト</li> <li>2.SWYworld.netの普及</li> <li>3. 各国Bus for World Youthの実施</li> <li>4. 既参加青年東京連絡会議にて提案されたプロジェクトの普及</li> <li>5.SWY献血デー</li> <li>6.国際支援活動</li> <li>7.SWYAAハンドブック</li> <li>8.ワークショップの開催</li> <li>9.2011年カレンダーの作成</li> <li>10.既参加青年のビジネス評議会の結成</li> <li>11.異文化理解ハンドブックの作成</li> <li>12.SWYAA証言葉プロジェクト</li> </ul> </li> </ul>
第5回	メキシコ/ メキシコシティ	2011年 9月28日～ 10月2日	既参加青年の 地域への貢献	15か国から69名が参加 し、うち20名が運営に携 わった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メキシコ政府外務大臣による講義「外交における青少年の重要性」</li> <li>・連邦議会議員との意見交換</li> <li>・訪問先 <ul style="list-style-type: none"> <li>1)メキシコ国立人類学博物館</li> <li>2)世界文化遺産テオティワカン遺跡</li> <li>3)世界文化遺産ソチミルコ</li> <li>4)メキシコシティ市街地</li> <li>5)リチャ・リブレ(メキシカン・プロレス)</li> </ul> </li> <li>・事後活動協議会(Part 1)での発表 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 事後活動の成功事例:メキシコ、日本、パーレーン、ペルー、エクアドル、オーストラリア</li> <li>- シャンタル・ベイダー基金の設立</li> </ul> </li> <li>・事後活動協議会(Part 2)にて提案されたプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> <li>- 学校をつなぐプロジェクト</li> <li>- ソーシャル・メディア、ウェブサイトの効果的な利用</li> <li>- 地域ネットワークの強化</li> </ul> </li> </ul>
第6回	パーレーン	2012年 10月4日～8日	既参加青年の 地域への貢献	21か国から118名が参加 した。 これに加え、パーレーン からは20名が実行委員 として参加(うち17名が 既参加青年、3名が一般 のボランティア)。 開会式には30名のVIP (ナーセル殿下、ハー リド殿下、大臣、大使な ど)と約290名の参加が あった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会式はアラッド要塞にて、ハマド国王の四男で青年スポーツ最高評議会議長であるナーセル殿下の後援を受けて盛大に開催された。</li> <li>・課題別視察 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 湾岸石油化学工業会社</li> <li>- パーレーン大学</li> <li>- ムハラク高齢者社会福祉センター</li> <li>- 女性最高評議会</li> </ul> </li> <li>・訪問先 <ul style="list-style-type: none"> <li>- パーレーン国立博物館</li> <li>- パーレーン要塞</li> <li>- 石油博物館訪問</li> <li>- F1サーキット</li> <li>- 王家馬術クラブ</li> <li>- コーラン博物館</li> <li>- アルファター・モスク</li> <li>- ムハラク旧市街地散策</li> </ul> </li> <li>・事後活動協議会 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 東京連絡会議の報告</li> <li>- 各国の事後活動報告</li> </ul> </li> </ul>

# Ship for World Youth Alumni Association (SWYAA) Charter

March 2005

## 1. MISSION

The SWYAA promotes and supports the spirit of leadership towards achieving cultural understanding, international cooperation and world peace developed during the SWY program sponsored by the Cabinet Office, Government of Japan.

## 2. OBJECTIVES

- a) To provide a means of communication for the former and present participants of the SWY programs
- b) To provide a means of communication between Alumni Association members and the Japanese Government
- c) To provide information and develop domestic and international networks
- d) To organize activities locally and internationally which would establish new social, volunteer and development initiatives
- e) To strengthen relationships among Alumni Associations in order to achieve common goals

## 3. STRATEGIES

The above objectives can be achieved through the following strategies. This list is not exclusive.

- a) To maintain an accurate national database
- b) To inform the IYEO of any changes to the national database
- c) To contribute to the annual SWY News and provide an annual activity report
- d) Regularly publish and distribute a national newsletter. A copy of this newsletter should be provided to the IYEO
- e) To develop a network among Alumni Associations through various communication tools
- f) To create one official website for each national Alumni Association
- g) To be involved in the selection process and/or preparation and training of the new Participating Youths (PYs)
- h) Communications with the Japanese Government shall go through the Japanese Embassy and/or the International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO)

## 4. ORGANIZATIONAL STRUCTURE

- a) Each national Alumni Association is autonomous, independent and developed by the national Alumni Association members.
- b) Each national Alumni Association must have one President and at least one Vice President.
- c) Each national Alumni Association must have two E-mail receivers, preferably the President and Vice President.
- d) Each national Alumni Association should have a Treasurer.
- e) Every attempt should be made to seek active membership from past participants of the SWY program who are citizens of and/or residing in your country. There are two types of membership:
  - i) Ex-PYs of the SWY program
  - ii) Ex-PYs of any other program sponsored by the Cabinet Office, Government of Japan
- f) The individual national Alumni Association should grow and adapt in accordance with the diversity and size of each country's membership.

## 5. MANAGEMENT AND DUTIES

### a) Duties of President

- i) To represent their country, manage communication nationally and act as a liaison at the international level
- ii) To coordinate the activities of the national Alumni Association
- iii) To ensure an accurate and up-to-date list of members and their contact information is maintained
- iv) To maintain contact with the Japanese Embassy, the IYEO and other SWYAAs
- v) To delegate duties to the Vice President(s) and other members as necessary
- vi) To maintain and pass on all archived alumni information to successive President

### b) Duties of Vice President

- i) Provide support to the President
- ii) Stand in for the President in the event that the President is unable to fulfill his or her duties.

\*This Charter is a revision of the SWYAA Agreements (East 2004 and West 1996).

**c) Duties of the E-mail Recipient**

- i) Must register to the SWYAA-Council mailing list
- ii) Receive and transmit information to national Alumni Associations
- iii) Distribute information to other Alumni Associations through the SWYAA-Council.
- iv) In the event that the E-mail Recipient is not the President, any activity by the E-mail Receiver must be done with the approval of the President.

**d) Duties of Treasurer**

The main responsibility of the Treasurer is to manage the economic situation of the Alumni Association. This means:

- i) To collect membership fees

- ii) To manage the budget
- iii) To maintain financial records and documents and provide an annual financial report

**6. NEWSLETTER**

- a) "SWY News" annual newsletter is edited for and distributed by post to the ex-PYs by the IYEO and sponsored by the Cabinet Office, Government of Japan.
- b) Each Alumni Association should submit at least one article to the IYEO.

**7. ANNUAL REPORT**

- a) A report of the previous year is to be submitted to the IYEO by the end of February.
- b) This report should follow SWYAA guidelines.

## Ship for World Youth Alumni Association (SWYAA)

### 1. What is the Ship for World Youth Alumni Association (SWYAA)?

Each country has an association for alumni participating youth, founded for the purpose of continuing the spirit that was fostered through the Ship for World Youth (SWY) program. The basic structure of the organization begins with the President (1 person), Vice Presidents (2 people), and E-mail Recipients (2 people) who are responsible for electronic information exchange. The main activities of the SWYAAs include, but are not limited to, planning and managing post-program activities such as those that contribute to society in their country, strengthening ties with Japanese Embassies and the Government of Japan, updating contact information for members, as well as supporting future participants of the program.

### 2. Participating Countries

As of March 2013, SWYAAs have been established in 46 countries around the world and are involved in various activities.

### 3. Objectives

- a) To provide a means of communication for the former and present participants of the SWY program.
- b) To provide a means of communication between SWYAA members and the Japanese Government.
- c) To provide information and develop domestic and international networks.
- d) To organize activities locally and internationally which would establish new social, volunteer, and development initiatives.
- e) To strengthen relationships among SWYAAs in order to achieve common goals.

### 4. Details of Activities

#### a) Ship for World Youth Alumni Association Tokyo Conference (Ex-PY Conference)

This annual conference is sponsored by the Cabinet Office, the Japanese Government, and is attended by SWYAA representatives. The purpose of this conference is to exchange information on the development of post-program activities, as well as the structure and depth of each country's SWYAA, which provide the foundation for such activities. An additional objective of the conference

is to have discussions to develop an international network of holistic ties between each country and the IYEO in Japan. Basically, participants discuss how the SWYAA network can be used in activities for the betterment of society, future directions of post-program activities, and how ex-Participating Youth (ex-PYs) can contribute to the SWY program. To date, the results of past conferences include: the development of a homestay network; recommendation to have ex-PYs as advisors on the SWY program; development of a preparatory manual for participating youth prior to the program or the handbook for National Leaders; development of a promotional kit to introduce the SWY program; setting up rules for the use of mailing list; and writing down a guideline which SWYAA members can use to conduct pre-departure orientation session for the new participants of the coming SWY program. The "Global Photo Contests" were organized four times starting from 2004 to promote cultural exchange and to strengthen the alumni network locally and globally. In 2005, a logo contest was launched to decide the common logo for SWYAA. In 2006, Handbook for Cultural Understanding was revised into a digital form to be uploaded on the website, and an official video of SWY program (10 minutes version) was created which can be used for promotion of the program. In 2007, in order to commemorate the 20th anniversary of SWY in 2008, it was agreed to work on collecting history of each SWY batch on the website (SWY History on Website), SWY Calendar, implement Charity Lunch, and contribute to the environment by planting "SWY Forest" in various countries. In 2008, as part of the international relief activities, International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) began its cooperation with the project in Kenya (humanitarian support to the Internally Displaced Persons) and the educational assistance project in Sri Lanka (One More Child Goes to School Project). From 2009 to 2010, it was agreed to compile a material for cross-cultural understanding education, and to jointly work on a project under the name "Homestay + 1" where homestay recipients are encouraged to organize volunteer activity so that the visitor can experience something extra

(“plus one” experience). Also, movement to collect information on former participants with prominent background or to collect testimonials about the meaning of the SWY program started.

#### **b) SWYAA Global Assembly**

International Reunion, which was held at a port of call on the SWY program route, was reformed into SWYAA Global Assembly from 2007. Any active SWYAA is given an opportunity to hold an annual Global Assembly, which is not merely an international reunion for the ex-PYs, but also a forum to discuss about post-program activities and how to promote social contribution activities locally and internationally. Conference for Post-Program Activities is an opportunity for the participants to understand about the activities taking place in different countries, and also to share the outcomes of the SWY program.

The 1st SWYAA GA was held in Greece in September 2007, the 2nd GA was held in Japan in August 2008, the 3rd GA was in Australia in September 2009, the 4th GA was in Egypt in October 2010, the 5th GA was held in Mexico in September 2011, and the 6th GA was held in Bahrain in October 2012.

#### **c) SWY News**

This is an in-house paper published annually in English, focusing specifically on the SWY program. Regardless of whether one is Japanese or an overseas participant, alumni from the previous 10 programs, as well as subscribers receive this paper. SWY News is filled with articles on details of post-program activities in various countries, a report of the SWYAA Ex-PY Conference proceedings, and the latest news of ex-PYs from all over the world. Thus far, 20 issues have been published.

#### **d) Mailing Lists**

In order to deepen the connections between the ex-PYs, electronic mailing lists have been established and are actively used. There are English and Japanese lists, and they include the following:

- Japanese mailing list for all Japanese ex-PYs
- Japanese mailing lists for Japanese ex-PYs from each year
- Mailing list for distribution of SWY related news and post-program activities (SWY-news)
- English mailing list for all ex-PYs (SWY-net)
- English mailing lists for each year
- Mailing list for SWYAA representatives (SWYAA-council)

#### **e) Website**

In order to stimulate the activities of the SWYAA that are spreading throughout the world, strengthening networks through the use of computers has been encouraged. Through linking each country’s websites with the SWYAA main website, various information sharing and exchange has been taking place. URL: <http://www.swyaa.org> Another website was created in May 2009 to introduce the Ship for World Youth program to public. URL: <http://www.shipforworldyouth.org>

#### **f) SWYAA Directory**

In the SWYAA directory, the name, address, phone number, fax number, e-mail address and area of interest of all ex-PYs are listed. This information is useful for alumni to get in touch with one another and promote their activities.





# The Movement to Establish a SWYAA and Its History

## 1. Building an International Network of Ship for World Youth Ex-Participating Youth

The Ship for World Youth (SWY) program began in 1988, marked its 25th voyage in 2013 (fiscal year 2012). Over the years, approximately 2,880 Japanese youth and 3,730 youth from 63 overseas countries have participated in the program. It is hoped that all these ex-participating youths (ex-PYs) will make use of the valuable experience they gain through the program, to engage in international exchange activities in their community, work place and school. It is hoped that by participating in youth activities, they will build bridges of friendship and goodwill between Japan and their respective countries.

At first, the structure, capital and know-how to provide the foundation for alumni post-program activity in each country were scarce. However, with each subsequent SWY program, the depth and breadth of the alumni have increased, and as more information has been gathered and the effects of the Internet spread, slow but sure progress could be seen towards inspiring activities in each country, and building a global network.

Beginning with the 12th program, the eastern route and the western route countries were united with participating countries representing both hemispheres. However, the style of alternating between the eastern route (North, Central and South America, Oceania) and western route (Southwest Asia, Middle East, Africa) has not changed. Since the ports of call and the participating countries are not set, the capacity to build the foundation necessary for real activism on a global scale is difficult. It is nevertheless thought that it is important to proceed towards a structure of international networks.

## 2. The Beginning: Greece

The fundamental first step towards this vision took place at a gathering in February 1994, during the 6th SWY program in Piraeus, Greece, a port of call. Through correspondence with Japanese alumni from the 4th program, ex-PYs from Hungary and Sweden converged at the docked Nippon Maru. Because of lack of preparation, funds, limited correspondence etc., ultimately, only a few people were able to assemble, making it impossible to even plan a meeting. Nonetheless, the experience proved invaluable for

planning in the future.

## 3. The Ship for World Youth International Reunion

Building on our past experience, the first official Ship for World Youth International Reunion (eastern route) was held over two days in Acapulco, Mexico from March 2nd to 3rd, 1995, on board the 7th SWY program. At this gathering, a total of 56 people, including the Mexican ex-PYs, participated and deepened their friendships with one another. During the meetings, each country discussed the development of their Alumni Association and the various activities that could be organized through this association. This was followed by a dialogue about how to develop multiple and holistic ties between each country and Japan, and to build an international network. Lastly, as an outcome of this gathering, it was agreed to submit a proposal for future activities, symbolizing the first step in the development of the Alumni Associations.

After this first reunion in Mexico, and the International Reunions have taken place at one of the ports of call of during subsequent SWY programs until 2006. Although in the beginning, it was a 2-day program that was held on board the ship, as of 2000 in New Zealand, it has become an event that spans 5 days and 4 nights, and includes discussions on board and activities in the port of call. Altogether, the international reunions have been held three times in Acapulco, Mexico (1995, 1997, 1999), once in Dubai, United Arab Emirates (1996), once in Muscat, Oman (1998), once in Cape Town, South Africa (1999), once in Auckland, New Zealand (2000), once in Vancouver, Canada (2002), once in Dar es Salaam, Tanzania (2004), once in Sydney, Australia (2005), and once in Port Louis, Mauritius (2006). For 2001, a reunion was planned in Kenya, and for 2007 in Fiji, but due to a change in the sailing routes for the SWY programs, the events were cancelled.

Starting from 2007, International Reunion changed its name to the SWYAA Global Assembly (GA), and became an event that includes the Conference for Post-Program Activities. Thereafter, location for GA is not associated with the port of call countries.

#### **4. The Founding of the Ship for World Youth Alumni Association**

The original document outlining the Ship for World Youth Alumni Association (SWYAA) was compiled by ex-PYs from the 3rd and 5th programs who attended the 1st Ship for World Youth International Reunion (eastern route), and the members of the 7th SWY program. Following this, heated discussions took place on board the 7th SWY program resulting in the selection of 3 Key Persons per participating country, and decisions regarding the establishment of SWYAA in their respective countries, and their positions on networking and maintaining ties. Consequently, Ecuador demonstrated their decision to launch SWYAA-Ecuador, and several other countries followed suit.

#### **5. The Commencement of the SWYAA Tokyo Conference (Eastern Route)**

Following the guidelines set during the 1st Ship for World Youth International Reunion, the 1st Tokyo Conference for the Ex-Participating Youth of SWY Program (hereafter, Tokyo Conference – later changed its naming to Ex-PY Conference) was held from January 16th to 21st, 1996, with the purpose of not just promoting activities within each country, but also to build a concrete international network among the ex-PYs.

14 people from 13 countries were invited by the Japanese Government to participate in the conference. They and members of the IYEO engaged in an animated discussion over the direction of future activities. The results of the debates were summarized in the SWYAA Agreement (East), which was signed by all members.

#### **6. Organizing the Ex-PYs (Western Route)**

Up to this point, the activities of the ex-PYs from the eastern route had been progressing. However, on March 1st and 2nd, 1996, on board the 8th SWY program in Dubai, a conference was held for the ex-PYs of the western route, during which time, the activities

of the eastern route participants were explained. Furthermore, from January 16th to 21st, 1997, the 2nd Tokyo Conference (western route) was held, and after intense discussion, the results were summarized in the SWYAA Agreement (West).

#### **7. The Institutionalization of the SWYAA Network**

In keeping with the development of the east and west SWYAAAs, the Ex-PY Conference and the SWYAA Global Assembly (including International Reunions) are being held, alternating between the eastern and western routes. Originally, the Ex-PY Conference representatives were invited to a conference held in Tokyo. However, from 2001 to 2006, representatives were invited to board the ship at the final port of call of the SWY program. While on board, conference representatives take part in discussions, as well as talk with participating youth of the program about post-program activities. After arriving in Tokyo, representatives, together with Japanese organizing committee members, continued with further discussions and finally, summarized the outcome of the conference. Since 2007, the Ex-PY Conference has been held entirely in Japan again, instead of aboard the ship during the SWY program. In 2005, seeking to have a common mission for all the SWYAA member countries, a SWYAA Charter was formed, revising and merging the two existing Agreements for the eastern route and the western route.

#### **8. Exchanging Information Through the Internet**

Mirroring the move towards electronic information, a mailing list was set up in 1996 to encourage sharing of information and resources among the ex-PYs. Furthermore, based on the Ex-PY Conference held in 1999, a common SWYAA website was developed in 2000, which provided a forum to introduce various projects and activities taking place in different countries. In addition to this, there have been many mailing lists set up for ex-PYs to share information on a variety of topics.

## 1. History

The International Youth Exchange Organization of Japan (IYEO) was established in 1959 by ex-Participating Youth (ex-PYs) of international youth exchange programs sponsored by Cabinet Office of the Japanese Government. Among those programs were Japanese Youth Goodwill Mission, Japanese Goodwill Cruise, Ship for Southeast Asian Youth, Japan-Brazil Youth Friendship Exchange, Japan-China Youth Friendship Exchange, Friendship Mission to Oman, Japan-Korea Youth Friendship Exchange, Ship for World Youth, and the International Youth Development Exchange. The IYEO members number up to approximately fifteen thousand.

In 1961, the Seiyu-kai began its operation as an Alumni Association for ex-PYs of the Japanese Youth Goodwill Mission. In 1968, Seinen-no-fune-no-kai was organized by ex-PYs of Japanese Youth Goodwill Cruise. In 1985, to consolidate the position as an active organization, Japanese Youth Goodwill Mission Seiyu-kai and Seinen-no-fune-no-kai were united into the International Youth Exchange Organization of Japan.

## 2. Purpose and Organization

The IYEO prescribes its code, "Based on the resources gained from international youth exchange programs, the IYEO deepens international understandings and contributes to international friendship. Through the activities, the IYEO renders services to society in wider fields and strives for mutual exchange among members and study for members." In order to achieve this goal, there exist 47 local organizations in all the 47 prefectures. In most cases, these organizations operate as International Youth Exchange Organization of the respective prefecture. However, some groups use their original names or are under different names

when they were united with an Alumni Association of international youth exchange programs sponsored by their local bodies. All of the organizations in the 47 prefectures are registered as member organizations of the "Center for International Youth Exchange" which is a non-profit organization.

## 3. Activities

The headquarter of the IYEO promotes mutual understanding and communication among members and helps prefectural organizations to perform various activities smoothly. At the same time, it aims to strengthen ties with foreign ex-PYs of Ship for Southeast Asian Youth Program, Ship for World Youth, and such.

The main activities of each prefectural organization are to contribute to the promotion of international youth exchange in the local district, to extend its social services to wider extent, and to cooperate for the improvement of international youth exchange programs sponsored by the Cabinet Office, Japanese Government.

## 4. Reinforcement

The IYEO holds a system to actively support the post-program activities of ex-PYs as well as local activities in order to enrich international exchange. The IYEO has long been making efforts to be appointed as a legal body. Its purpose was recognized and the establishment of Center for International Youth Exchange was permitted by the Japanese Government in April 1994.

From now on, the IYEO will actively take part in international exchange activities in a close cooperation with Center for International Youth Exchange so as to contribute to the society.

## What is SWYAA and What is IYEO?

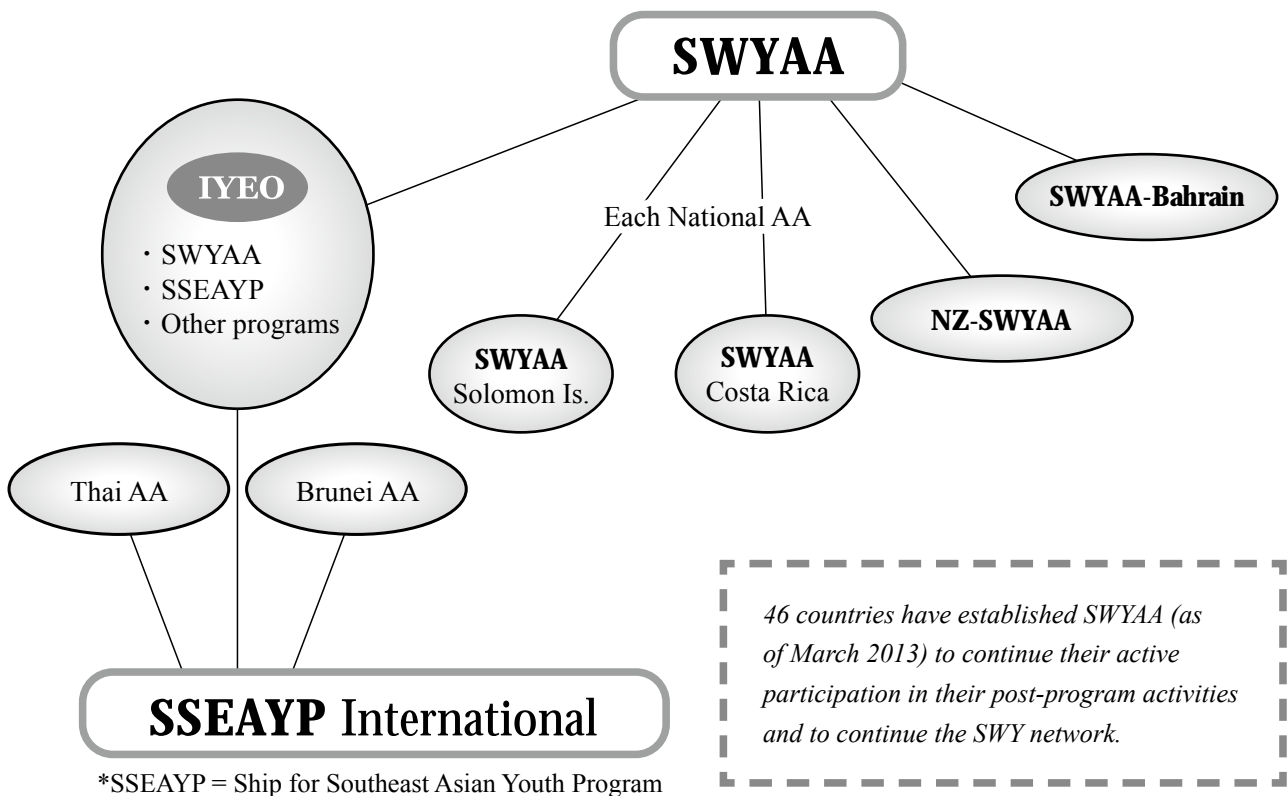
The relationship between the SWYAA and the IYEO is often confused, so please refer to the explanation below to understanding about the position of each organization.

### SWYAA...Ship for World Youth Alumni Association

This is the comprehensive naming for all of the Alumni Associations established by the ex-PYs of SWY. The naming may vary according to each country.

### IYEO...International Youth Exchange Organization of Japan

A big Alumni Association established by the former Japanese participants of all the international exchange programs sponsored by the Cabinet Office (Ship for World Youth Program, Ship for Southeast Asian Youth Program, Japan-China/Japan Korea Youth Friendship Exchange, etc.). IYEO is not the head organization of the SWYAA, but it is an Alumni Association of Japan that is acting as the secretariat of all the AAs to promote SWYAA network.



Since IYEO has a headquarter office and works intimately with the Japanese Government, it has been taking the initiative in some of the international alumni association activities and sending information from the Japanese Government to SWYAAs.

IYEO had been doing its activities at a voluntary basis for about 40 years, and in 1994, a nonprofit organization, the Center for International Youth Exchange, was established to promote international youth exchange and to support the activities of the IYEO. Although the IYEO is an NGO, it began to receive various supports from the Japanese Government to promote post-program activities. With these supports from the Center for International Youth Exchange and the Cabinet Office of the Japanese Government, it became possible for the IYEO to support some of the SWYAA activities.

## Steps to Establish SWYAA

### The First Step

---

1. Each national Alumni Association should have one President and at least one Vice President. The President of the Alumni Association should be residing in the country.
2. Each national Alumni Association must have two E-mails recipients preferably the President and Vice President.
3. Each national Alumni Association should have a treasurer.
4. Every attempt should be made to seek active membership from past participants of the SWY program who are citizens of and/or residing in your country.
5. To establish and maintain accurate national database and inform IYEO of any changes to the national database
6. To hold free and fair elections on a periodic basis

### The Second Step

---

1. Contribute to the annual SWY News and provide an annual activity report.
2. Regularly publish and distribute a national newsletter. A copy of this newsletter should be provided to the IYEO.
3. To maintain and pass on all alumni information to successive committees.
4. To develop a network among the AAs through various communication tools
5. To create one official website for each national Alumni Association.

6. To be involved in the selection process and/or preparation and training of the new Participating Youth (PYs)
7. To establish communications with the Japanese Embassy
8. To build up a Homestay Network and/or Travel Network – plan voluntary international exchange programs using the global network of the AAs

### The Third Step

---

1. To hold regional reunions or conferences
2. To give human resources and support for planning/ implementing programs when becoming the port of call of a SWY program in conjunction with the Japanese Embassy and your Government
3. To build a network with the ex-PYs of other international exchange programs organized by the Japanese government
4. To hold events for introducing the SWY program or Japanese culture: cooperation with the Japanese Embassy in your country can be expected

### The Fourth Step

---

1. To collect membership fees and/or engaging in fundraising
2. To establish partnerships between Alumni Associations in order to assist in Alumni Association development
3. Periodical international conferences and/or reunions.
4. Social activities that will contribute to the global society

## Timeline of the SWY Programs and SWYAA Conferences

Year	Date	Programs
1989	Jan.-Mar.	<b>1st Ship for World Youth Program</b>
1990	Jan.-Mar.	<b>2nd Ship for World Youth Program</b>
1991	Jan.-Mar.	<b>3rd Ship for World Youth Program</b>
1992	Jan.-Mar. December	<b>4th Ship for World Youth Program</b> 1st Edition of SWY News 1st Version of SWY Directory
1993	Jan.-Mar.	<b>5th Ship for World Youth Program</b>
1994	Jan.-Mar. February March	<b>6th Ship for World Youth Program</b> <b>Reunion (unofficial) in Greece (Pireas)</b> 2nd Edition of SWY News 2nd Version of SWY Directory
1995	Jan.-Mar. Mar. 2-3   October	<b>7th Ship for World Youth Program</b> <b>1st International Reunion (Acapulco, Mexico)</b> * Establishment of SWYAA for east course countries (mainly by SWY7) <Participating Countries> Australia, Brazil, Canada, Colombia, Costa Rica, Dominican Republic, Ecuador, Fiji, New Zealand, Solomon, USA, Venezuela 3rd Edition of SWY News
1996	Jan.16-21  Jan. 19 Jan.-Mar. Mar.1-2  November	<b>1st SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Brazil, Canada, Colombia, Costa Rica, Dominican Republic, Ecuador, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Solomon, USA, Venezuela * Adoption of SWYAA Agreement (East) <b>8th Ship for World Youth Program</b> <b>2nd International Reunion (Dubai, UAE)</b> * Establishment of SWYAA for west course countries (mainly by SWY8) <Participating Countries> Bangladesh, Belgium, Egypt, Finland, Greece, Kenya, Kuwait, Norway, Oman, Qatar, Poland, South Africa, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, UAE, UK, Yemen 4th Edition of SWY News
1997	Jan. 16-21  Jan. 20 Jan.-Mar. Mar. 3-4  December	<b>2nd SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bangladesh, Belgium, Egypt, Finland, Greece, Japan, Kenya, Norway, Oman, Poland, Qatar, South Africa, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, UAE, UK, Yemen * Adoption of SWYAA Agreement (West) <b>9th Ship for World Youth Program</b> <b>3rd International Reunion (Acapulco, Mexico)</b> 3rd Version of SWY Directory 5th Edition of SWY News
1998	Jan.15-21  Jan.-Mar. Feb. 20-28 Mar. 3-4  December	<b>3rd SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Brazil, Canada, Chile, Costa Rica, Dominican Republic, Ecuador, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Peru, Tonga, USA, Venezuela <b>10th Ship for World Youth Program</b> * <b>1st Post-Program Activities Promotion Programs (Jordan~Oman)</b> <b>4th International Reunion (Muscat, Oman)</b> 4th Version of SWY Directory 6th Edition of SWY News

Year	Date	Programs
1999	Jan. 14-20  Jan.-Mar. Feb.15-27 Feb. 23-26 March July Sep. 6-12  Sep.-Oct. Oct. 3-4 Oct.1-20	<b>4th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Egypt, Finland, Greece, Japan, Norway, Poland, South Africa, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, UAE, UK, Yemen <b>11th Ship for World Youth Program</b> <b>*2nd Post-Program Activities Promotion Programs (Ecuador~Mexico)</b> <b>5th International Reunion (Acapulco, Mexico)</b> 5th Version of SWY Directory 7th Edition of SWY News <b>5th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Canada, Chile, Costa Rica, Dominican Republic, Ecuador, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Peru, Solomon, Tonga, Uruguay, USA, Venezuela <b>12th Ship for World Youth Program</b> <b>6th International Reunion (Cape Town, South Africa)</b> <b>*3rd Post-Program Activities Promotion Programs (South Africa~UAE)</b>
2000	Mar. 27-31 July Aug. 31-Sep. 6  Sep.-Oct. Oct. 7-11 Oct. 4-26	<b>SWYAA Post-Program Conference (Tokyo)</b> 8th Edition of SWY News <b>6th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Belgium, Egypt, Greece, India, Japan, Kenya, South Africa, Sweden, Tanzania, UAE, UK <b>13th Ship for World Youth Program</b> <b>7th International Reunion (Auckland, New Zealand)</b> <b>*4th Post-Program Activities Promotion Programs (New Zealand~Singapore)</b>
2001	September Oct.-Dec. Nov.12-Dec.13 Dec. 4-16	9th Edition of SWY News <b>14th Ship for World Youth Program</b> <b>*5th Post-Program Activities Promotion Programs (New Zealand~Tokyo)</b> <b>7th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Brazil, Canada, Chile, Costa Rica, Ecuador, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Paraguay, Peru, Tonga, USA, Venezuela
2002	Mar. 2-7 July Oct.-Dec. Nov. 24-28 Nov. 28-Dec.13 Dec. 2-16	<b>SWYAA Port of Call Activities Promotion Conference</b> 10th Edition of SWY News <b>15th Ship for World Youth Program</b> <b>8th International Reunion (Vancouver, Canada)</b> <b>*6th Post-Program Activities Promotion Programs (Canada~Japan)</b> <b>8th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Canada, Chile, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Tonga, USA, Venezuela
2003	August	11th Edition of SWY News
2004	Jan. -Mar. Feb. 8-12 Feb. 24-Mar. 3  Feb. 24-Mar. 7  September	<b>16th Ship for World Youth Program</b> <b>9th International Reunion (Dar es Salaam, Tanzania)</b> <b>*7th Post-Program Activities Promotion Programs (Tanzania, Singapore~Japan)</b> <b>9th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Egypt, Greece, India, Japan, Kenya, Mauritius, Norway, Seychelles, Spain, UAE 12th Edition of SWY News

Year	Date	Programs
2005	Jan. -Mar. Jan. 31-Feb. 4 Feb. 1, 27  Feb. 24-Mar. 8  September	<b>17th Ship for World Youth Program</b> <b>10th International Reunion (Sydney, Australia)</b> <b>*8th Post-Program Activities Promotion Programs (Australia, Saipan~Japan)</b> <b>10th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Brazil, Canada, Chile, Costa Rica, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Solomon, Tonga, USA, Venezuela 13th Edition of SWY News
2006	Jan. -Mar. Feb.11-16 Feb. 23, 27  Feb. 21-Mar. 6  September	<b>18th Ship for World Youth Program</b> <b>11th International Reunion (Port Louis, Mauritius)</b> <b>*9th Post-Program Activities Promotion Programs (Mauritius, Singapore~Japan)</b> <b>11th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Greece, India, Japan, Kenya, Mauritius, Norway, Seychelles, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, UAE, Yemen 14th Edition of SWY News
2007	Jan. -Mar. Feb.19-27 Apr. 17-22  September Sept. 5-9	<b>19th Ship for World Youth Program</b> <b>*10th Post-Program Activities Promotion Programs (New Zealand~Vanuatu)</b> <b>12th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Brazil, Canada, Chile, Costa Rica, Fiji, Japan, New Zealand, Solomon, Tonga, U.S.A., Venezuela 15th Edition of SWY News <b>1st SWYAA Global Assembly (Athens, Greece)</b>
2008	Jan. -Mar. Feb. 20-27  Mar. 16-21  Aug. 21-24 October	<b>20th Ship for World Youth Program</b> <b>*11th Post-Program Activities Promotion Programs (India ~ Singapore)</b> <b>13th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Egypt, Greece, India, Japan, Kenya, Oman, Seychelles, Spain, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, Yemen <b>2nd SWYAA Global Assembly (Tokyo, Japan)</b> 16th Edition of SWY News
2009	Jan. -Mar. Feb. 12-20  Mar. 22-27  Sept. 2-6	<b>21st Ship for World Youth Program</b> <b>*12th Post-Program Activities Promotion Programs (New Zealand ~ Vanuatu)</b> <b>14th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Canada, Costa Rica, Ecuador, Fiji, Japan, New Zealand, Peru, Solomon, Tonga, Venezuela <b>3rd SWYAA Global Assembly (Brisbane, Australia)</b>
2010	Jan. -Mar. Feb. 17-25  Mar. 22-27  June 19– 25  September Oct. 9– 13	<b>22nd Ship for World Youth Program</b> <b>*13th Post-Program Activities Promotion Programs (India ~ Singapore)</b> <b>15th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Egypt, Greece, India, Japan, Kenya, Mauritius, Oman, Sri Lanka, Sweden, U.A.E. <b>16th SWYAA Tokyo Conference (East)</b> <Participating Countries> Australia, Chile, Fiji, Japan, Mexico, New Zealand, Peru, Solomon, Tonga, Vanuatu, Venezuela 18th Edition of SWY News <b>4th SWYAA Global Assembly (Cairo, Egypt)</b>



Year	Date	Programs
2011	Jan. – Mar. Feb. 10– 18 September Sep.28– Oct. 2	<b>23rd Ship for World Youth Program</b> <b>*14th Post-Program Activities Promotion Programs (Australia ~ Vanuatu)</b> <b>19th Edition of SWY News</b> <b>5th SWYAA Global Assembly (Mexico City, Mexico)</b>
2012	Jan. – Mar. Feb. 18 – 24 Mar. 18 – 24  September Oct. 4 – 8	<b>■ 24th Ship for World Youth Program</b> <b>*15th Post-Program Activities Promotion Programs (Sri Lanka ~ Singapore)</b> <b>17th SWYAA Tokyo Conference (West)</b> <Participating Countries> Bahrain, Egypt, Greece, India, Japan, Kenya, Sri Lanka, Sweden, Turkey, U.A.E., Yemen <b>20th Edition of SWY News</b> <b>6th SWYAA Global Assembly (Bahrain)</b>
2013	Jan. – Mar. Feb. 15 – 18 Mar. 17 – 23	<b>■ 25th Ship for World Youth Program</b> <b>*16th Post-Program Activities Promotion Programs (Kobe ~ Ofunato)</b> <b>18th SWYAA Tokyo Conference</b> <Participating Countries> Australia, Bahrain, Brazil, Canada, Chile, Costa Rica, Ecuador, Egypt, Fiji, Greece, India, Japan, Kenya, Mexico, New Zealand, Oman, Peru, Solomon, Spain, Sri Lanka, Sweden, Tanzania, Tonga, Turkey, U.A.E., U.K., Venezuela, Yemen



Area	Country	21	22	23	24	25	Total
Asia	Japan	108	130	126	129	116	2879
	Bangladesh						23
	India		12		11		130
	Nepal						9
	Pakistan						12
	Sri Lanka		12		11	10	144
Africa	Algeria						10
	Cameroon						11
	Egypt	12	11		11		159
	Kenya					8	116
	Mauritius	12					46
	Morocco						17
	Senegal						10
	Seychelles						32
	South Africa						61
	Tanzania			11			84
	Tunisia						12
Europe	Belgium						21
	Finland						33
	Germany						12
	Greece		11				81
	Hungary						12
	Italy						11
	Netherlands						9
	Norway	12					46
	Poland						24
	Russia				11		41
	Spain				11		71
	Sweden			12			49
	United Kingdom						46
Middle East	Bahrain		12	11	10	10	107
	Jordan						21
	Kuwait						11
	Oman		11	12			103
	Qatar						17
	Turkey		12		11	10	65
	UAE	9	11			8	111
	Yemen	11	12				45
Oceania	Australia		11	12			162
	Fiji	12		10		9	136
	Micronesia			10			10
	New Zealand	12			11	10	151
	Papua New Guinea						13
	Solomon Islands			12			68
	Tonga	12					88
	Vanuatu	11		10			31
	Western Samoa						13
Central/South America	Argentina						14
	Brazil			12	11		84
	Chile			12		10	82
	Colombia						22
	Costa Rica					10	113
	Dominican Rep.						36
	Ecuador		12				105
	Honduras						9
	Jamaica						13
	Mexico			12		10	188
	Panama						25
	Paraguay						9
	Peru	12			11		84
Uruguay						26	
Venezuela	11			11		158	
North America	Canada	12			11		134
	USA						148
Total		246	268	262	260	211	6613

**Ship for World Youth  
Alumni Association (SWYAA)  
Activity Report 2012**